

2026年度
国立音楽大学大学院 音楽研究科 博士後期課程
学生募集要項

国立音楽大学
入試センター
〒190-8520 立川市柏町 5-5-1
TEL 042-535-9536
<https://www.kunitachi.ac.jp/>

本学の基本的理念

自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育家を育成し、日本および世界の文化の発展に寄与する。

目 次

1. アドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・	3
2. カリキュラム・ポリシー・・・・・・・・・・	3
3. ディプロマ・ポリシー・・・・・・・・・・	3
4. 教育課程の概要・・・・・・・・・・	4
5. 教員組織の概要・・・・・・・・・・	8
6. 専攻・領域と募集人員・・・・・・・・・・	12
7. 出願資格・・・・・・・・・・	12
8. 出願手続・・・・・・・・・・	12
9. 出願書類・・・・・・・・・・	13
10. 受験票の送付・・・・・・・・・・	15
11. 試験科目・・・・・・・・・・	15
12. 選抜方法・・・・・・・・・・	16
13. 受験上の注意事項・・・・・・・・・・	17
14. 試験日程および試験場・・・・・・・・・・	17
15. 合格発表・・・・・・・・・・	17
16. 入学手続・・・・・・・・・・	17
17. 学生支援（サポート体制）・・・・・・・・・・	18
18. 外国人留学生志願者注意事項・・・・・・・・・・	18
19. 個別入学資格について・・・・・・・・・・	20

個人情報の取扱いについて

出願にあたって記入していただいた氏名・住所その他の個人情報は①出願・登録・選考、②学事および学生生活に関する管理、連絡および手続き、③本人および保証人宛に送付する各種書類等の発送、連絡およびこれらに付随する事務処理を行うために利用します。なお、提出された個人情報は個人情報保護法に則った万全の体制で管理いたします。

1. アドミッション・ポリシー

本課程は、以下のような人を入学者として受け入れる。

1. 声楽研究領域、器楽研究領域、創作研究領域の3領域では、高度な演奏能力、創作能力を身につけ、自己の演奏論や創作理論を構築・展開して、国際的に活躍する演奏家や作曲家をめざす、意欲的に研究する意志と能力を有した人
2. 音楽学研究領域と音楽教育学研究領域の2領域では、国際的に有意義な問題提起のできる質の高い研究者となるために、意欲的に研究する意志と能力を有した人

2. カリキュラム・ポリシー

本課程は、国際的に活躍できる演奏家・作家や、自律して研究を展開することのできる音楽学や音楽教育学の研究者を養成し、我が国の音楽文化の進展に寄与するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。

1. 博士課程レベルでの音楽研究のために必要な知識や方法を総合的に修得する
2. 西洋音楽ならびに日本の近現代音楽の研究に必要な知識と方法を総合的に修得する
3. 各研究領域における専門的な研究を行う
4. 声楽、器楽、創作担当教員と音楽学担当教員の連携による、領域横断的な教育・研究を行う
5. 高等教育機関における教員を養成する

3. ディプロマ・ポリシー

本課程は、下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に、学位（博士）を与える。学生は所定の科目を修得するとともに、博士論文等（研究領域により博士修了リサイタルまたは博士修了作品発表会を加える）の審査および最終試験に合格しなければならない。

1. 自律して演奏会を企画し、説得力ある演奏を行うことができる
2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる
3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる
4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる
5. 高等教育機関において教授できる

4. 教育課程の概要

1. 音楽研究専攻の中に、声楽研究領域、器楽研究領域、創作研究領域、音楽学研究領域、音楽教育学研究領域という 5 つの研究領域を置く。
2. 日本の近現代音楽をすべての研究領域で取り上げ、明治以降の日本人による西洋音楽様式で創作された作品の演奏論や、邦楽器を用いた創作などの研究を幅広い視点から領域横断的に行う。
3. 高等教育機関へのキャリアパスとして、1 年次に「教授法」（選択科目、2 単位）を履修し、TA（ティーチング・アシスタント）の研鑽を積んで高等教育の担い手を目指す手助けをする。また、RA（リサーチ・アシスタント）となり、より高度な学術研究の担い手となるための、実践的に研究業務を行う機会を設けている。
4. 声楽研究領域、器楽研究領域、創作研究領域の研究指導については、それぞれ声楽、器楽、創作担当教員と論文指導担当教員の連携により、総合的な指導を行う。

取得学位：	博士（音楽）	Doctor of Musical Arts
	博士（音楽学）	Doctor of Philosophy in Musicology
	博士（音楽教育学）	Doctor of Philosophy in Music Education

〈声楽研究領域／器楽研究領域〉

	1 年次	2 年次	3 年次
必修科目	特別総合演習 I II (2 単位) 2 年次、3 年次も出席することが望ましい。 音楽研究の基礎資料研究や研究方法論を総合的に修得 研究テーマの確定		
	研究指導 I ～VI 博士論文執筆指導 (論文指導担当教員) 演奏法・表現法等実技面の指導 (演奏系担当教員)		
	研究 コン サート 年次研究報告書	研究 コン サート 年次研究報告書	博士論文提出 修了リサیتال
選択必修科目	声楽領域研究 I ～IV (8 単位)／器楽領域研究 I ～IV (8 単位) 研究テーマに基づき、様々な様式やジャンルの作品、さらにその作曲家、演奏法等について研究		
共通選択科目	音楽理論特講 AB (2 単位) 音楽美学特講 AB (2 単位) 西洋音楽史特講 AB (2 単位) 音楽民族学特講 AB (2 単位) 日本音楽史特講 AB (2 単位) 音楽音響学特講 AB (2 単位) 共通選択科目は 2 年次、3 年次でも履修可能 音楽研究の基礎的素養を身につけるため 1 科目以上履修		
選択科目	教授法 (2 単位) 将来教員になることを目指す者を対象 テーマ別演習 I II (日本近現代音楽の研究) ※修士課程での未履修者は履修推奨 2 年次、3 年次でも履修可能		

〈創作研究領域〉

	1 年次	2 年次	3 年次
必修科目	特別総合演習ⅠⅡ（2単位） 2 年次、3 年次も出席することが望ましい。 音楽研究の基礎資料研究や研究方法論を総合的に修得 研究テーマの確定		
	研究指導Ⅰ～Ⅵ 博士論文執筆指導（論文指導担当教員） 作品創作、音楽理論の研究など実技面の指導（創作系担当教員）		
	作品発表会 年次研究報告書	作品発表会 年次研究報告書	博士論文提出 修了作品演奏会
選択必修科目	創作領域研究Ⅰ～Ⅳ（8単位） 研究テーマに基づき、作曲及び音楽理論に関わる様々な 創作技法について研究		
共通選択科目	音楽理論特講 AB（2単位） 音楽美学特講 AB（2単位） 西洋音楽史特講 AB（2単位） 音楽民族学特講 AB（2単位） 日本音楽史特講 AB（2単位） 音楽音響学特講 AB（2単位） 共通選択科目は2 年次、3 年次でも履修可能		
	音楽研究の基礎的素養を身につけるため1 科目以上履修		
選択科目	教授法（2 単位） 将来教員になることを目指す者を対象		
	テーマ別演習ⅠⅡ （日本近現代音楽の研究） ※修士課程での未履修者は履修推奨 2 年次、3 年次でも履修可能		

〈音楽学研究領域／音楽教育学研究領域〉

	1 年次	2 年次	3 年次
必修科目	特別総合演習ⅠⅡ（2単位） 2年次、3年次も出席することが望ましい。 音楽研究の基礎資料研究や研究方法論を総合的に修得 研究テーマの確定		
	研究指導Ⅰ～Ⅵ 博士論文執筆指導		
	学術誌への論文掲載 年次研究報告書	学術誌への論文掲載 年次研究報告書	博士論文提出
選択必修科目	音楽学領域研究Ⅰ～Ⅳ（8単位）／音楽教育学領域研究Ⅰ～Ⅳ（8単位） 研究テーマに基づき、音楽学または音楽教育学の先端的研究指導を通して、 音楽学研究、音楽教育学研究等の方法論について研究		
共通選択科目	音楽理論特講 AB（2単位） 音楽美学特講 AB（2単位） 西洋音楽史特講 AB（2単位） 音楽民族学特講 AB（2単位） 日本音楽史特講 AB（2単位） 音楽音響学特講 AB（2単位） 共通選択科目は2年次、3年次でも履修可能 音楽研究の基礎的素養を身につけるため1科目以上履修		
選択科目	教授法（2単位） 将来教員になることを目指す者を対象 テーマ別演習ⅠⅡ （日本近現代音楽の研究） ※修士課程での未履修者は履修推奨 2年次、3年次でも履修可能		

5. 教員組織の概要

2026 年度 担当教員一覧（予定）

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
声 楽	教 授	加納 悦子	オペラ、オラトリオを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究等に関するテーマ
		久保田 真澄	オペラ、オラトリオを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(イタリア声楽作品)等に関するテーマ
		黒田 博	オペラ作品を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ、イタリア声楽作品)等に関するテーマ
		澤畑 恵美	オペラ作品を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(イタリア、日本声楽作品)等に関するテーマ
		長島 剛子	ドイツ歌曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品)、アンサンブル研究等に関するテーマ
		福井 敬	イタリア・オペラを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(イタリア声楽作品)等に関するテーマ
		本島 阿佐子	ドイツ歌曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品)、演奏教育等に関するテーマ
		山下 浩司	主にドイツ語のオペラ・歌曲を中心とした声楽曲の歌唱法、演奏表現論、演奏解釈論等に関するテーマ
	准教授	望月 哲也	オペラ、オラトリオを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ、イタリア、日本声楽作品)等に関するテーマ
器 楽 [ピアノ]	教 授	江澤 聖子	ドイツ古典派、ロマン派、ロシア・ソヴィエト音楽を中心としたピアノ作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究および、演奏教授法等に関するテーマ
		金子 恵	リスト、ハンガリー現代曲を中心としたピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究等に関するテーマ
		河原 忠之	伴奏法一般(器楽・声楽)、特に声楽歌曲の分野、ピアノにおけるオーケストラ的奏法における演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究等に関するテーマ
		進藤 郁子	フランス音楽を中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究および、演奏教授法等に関するテーマ
		濱尾 夕美	ドイツ古典派、ロマン派のピアノ曲を中心とした演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究および、演奏教授法等に関するテーマ

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
器 楽 [ピアノ]	教 授	堀江 志磨	ドビュッシー、バルトークのピアノ作品を中心とした、演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究および、演奏教授法に関するテーマ
	准 教 授	遠藤 志葉	J.S.バッハを始めとするバロック鍵盤楽器作品の現代ピアノによる演奏解釈論、演奏表現論、作品研究、演奏史、演奏教授法に関するテーマ
		沢田 千秋	主に 19 世紀のピアノ音楽、およびピアノ編曲作品、ピアノを含む室内楽編曲作品の研究。演奏解釈論、作品研究等に関するテーマ
	特任教授	近藤 伸子	バッハ、ベートーヴェン、現代のピアノ曲を中心とした演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究および、演奏教授法等に関するテーマ
		久元 祐子	モーツァルトをはじめウィーン古典派を中心とした演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究および 19 世紀の歴史的鍵盤楽器の研究と奏法に関するテーマ
		三木 香代	ショパンを中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、伴奏法(器楽)、アンサンブル研究等に関するテーマ
	非常勤講師	有森 直樹	シューマンを中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論。ピアノコンチェルトにおける演奏法に関するテーマ
器 楽 [弦管打楽器]	教 授	青木 高志	ヴァイオリンを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)等に関するテーマ
		漆原 啓子	ヴァイオリンを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽)等に関するテーマ
		幸西 秀彦	打楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)等に関するテーマ
	准 教 授	高橋 聖純	フルート作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)、指導法等に関するテーマ
	客員教授	伊藤 寛隆	クラリネットの楽器法及び関連する作品全般についての技法、表現解釈論、指導法についての研究、オーケストラ作品(特に交響曲、管弦楽曲、協奏曲、吹奏楽作品も含む)の演奏法、スコアリーディング、表現解釈論(指揮を含む)とアンサンブル技術の研究に関するテーマ
		佐久間 由美子	フルート作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
	客員教授	藤森 亮一	チェロを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)等に関するテーマ
	特任教授	雲井 雅人	サクソフォーン作品の演奏解釈論、演奏表現論、楽器発達の歴史を含む演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ
		永峰 高志	ヴァイオリンを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)等に関するテーマ
	非常勤講師	池田 幸広	チューバ作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ
		早川 りさこ	ハープ作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ
創 作	教 授	今村 央子	作曲作品研究、作曲理論研究、音楽理論研究、ソルフェージュとその教育法等に関するテーマ
		菊池 幸夫	作曲作品研究、作曲理論研究、および管弦楽法、音楽理論等に関するテーマ
		栗山 和樹	劇場用映画における背景音楽の作品研究、作曲理論研究、編曲技法に関するテーマ
	准 教 授	今井 慎太郎	コンピュータ音楽研究、サウンドデザイン研究、メディアアート研究、作曲理論研究、分析論等に関するテーマ
		濱野 峻行	コンピュータ音楽研究、サウンドデザイン研究、メディアアート技法研究(ソフトウェア工学)、アートテクノロジーの社会活用等に関するテーマ
		渡辺 俊哉	作曲作品研究、作曲理論研究、管弦楽法、楽器法、音楽理論等に関するテーマ
音 楽 学	教 授	岡崎 香奈	即興音楽療法、音楽心理療法、ノードフ・ロビズ音楽療法に関わる研究、音楽療法の研究方法論、音・音楽の臨床的活用、音楽療法士養成教育に関するテーマ
		神部 智	主に 19 世紀以降の西洋音楽史、音楽家、音楽資料、作品等に関するテーマ
		早稲田 みな子	伝統音楽からポピュラー音楽までを含む世界の音楽文化、ディアスポラ、マイノリティの音楽文化、音楽民族学、音楽社会学等に関するテーマ
	准 教 授	瀬尾 文子	キリスト教音楽を中心とした作曲家・作品・演奏史研究、美学、芸術学、音楽社会学(ジェンダー研究を含む)、音楽思想史に関するテーマ
		塚田 花恵	1789 年以降の西洋音楽史、特にフランス語圏の作曲家・作品・音楽文化に関するテーマ
		中田 朱美	ロシア・ソヴィエト音楽を中心とした史料研究、音楽家研究、文化史研究、音楽社会学、音楽分析・解釈、演奏分析・解釈に関するテーマ

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
音 楽 学	准 教 授	前島 美保	日本の伝統音楽を中心とした史料研究、演奏家研究、作品分析・解釈、音楽史・芸能史研究(日本)等に関するテーマ
		三浦 雅展	音響学(音楽音響・音響心理等)、音楽情報学(音楽情報処理、計算機による音楽分析等)、楽器学(楽器音分析等)、演奏科学(計算機による演奏分析等)に関するテーマ
		三宅 博子	障害児者領域・高齢者領域・コミュニティ音楽療法に関わる音楽療法研究、音楽療法実践論、音楽とケアに関するテーマ
	特任教授	横井 雅子	音楽民族学、民俗音楽学、音楽社会学、音楽史等に関するテーマ
		吉成 順	古典から現代に至る音楽家研究、作品や演奏の分析・解釈、音楽資料論、音楽社会史、音楽文化論などに関するテーマ
	非常勤講師	宮川 渉	主に現代音楽に関する作曲家・作品・資料研究、音楽理論研究、現代音楽とテクノロジーや他の芸術分野、音楽文化との関係等に関するテーマ
音楽教育学	教 授	瀧川 淳	音楽教育学(特に、音楽教師の専門性、省察的実践理論、授業研究／フィールド研究、教科教育、音楽アウトリーチ、ICT教育)に関するテーマ
		津田 正之	音楽教育学(音楽教育史、音楽科のカリキュラム・授業論等)に関するテーマ
		八幡 眞由美	児童文化に関するテーマ
	准 教 授	伊藤 仁美	音楽教育学(幼児音楽教育、小学校音楽教育、リトミック、音楽と動き等)に関するテーマ

論文指導担当教員（声楽・器楽・創作研究領域の論文指導）

教 授	岡崎 香奈、神部 智、栗山 和樹、瀧川 淳、津田 正之、八幡 眞由美、早稲田 みな子
准 教 授	伊藤 仁美、遠藤 志葉、沢田 千秋、瀬尾 文子、塚田 花恵 中田 朱美、濱野 峻行、前島 美保、三浦 雅展、三宅 博子
特 任 教 授	近藤 伸子、横井 雅子、吉成 順
非常勤講師	宮川 渉

6. 専攻・領域と募集人員

専 攻	研究領域	募集人員
音楽研究	声楽	5 名
	器楽	
	創作	
	音楽学	
	音楽教育学	

※標準修業年限は 3 年です。

7. 出願資格

- 1) 修士の学位または専門職学位を有する者および入学までに取得見込みの者。
 - 2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および入学までに授与される見込みの者、またはこれに準ずる者。
 - 3) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者および入学までに取得見込みの者。
 - 4) 文部科学大臣の指定した者。
 - 5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに 24 歳に達する者。
- 5) により出願する者（上記 1）～4）に該当しない者）は、事前に入学資格審査を行いますので、20 ページ「19.個別入学審査資格について」をご確認ください。入学資格を認められた場合に限り、出願を認めます。（個別入学資格審査申請期間：2025 年 10 月 1 日～11 月 28 日）

8. 出願手続

- 1) 出願期間 2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 20 日（火）消印有効
出願書類等を一括して郵便局の速達簡易書留またはレターパックプラス（赤）にて下記までお送りください。大学の窓口では受け付けませんので、ご注意ください。
なお、海外から出願書類を送付する場合は、送付前に記載済みの願書を写真に撮り（またはスキャン）、消印有効期日の 1 月 20 日（火）までにメール添付で入試センターへお送りください。（nyugaku@kunitachi.ac.jp）
- 2) 入学検定料 博士後期課程 42,000 円
博士後期課程 外国人留学生入試 50,000 円
【納入期間 2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 20 日（火）】
銀行振込とします。最寄りの銀行窓口より電信扱で納入してください。自動振込機による振込はできません。銀行収納印を受けた証明書を入学願書（裏面）に貼付してください。
※いったん納入された入学検定料は返還いたしません。
- 3) 提出先 〒190-8520 東京都立川市柏町 5-5-1
国立音楽大学入試センター博士後期課程出願係（TEL 042-535-9536）

9. 出願書類

- 1) **入学願書***（本学所定用紙に必要事項を記入し、所定欄に写真を貼付。）
希望指導教員欄には、指導を希望する教員がいる場合のみ氏名を記入してください。
出願にあたり、希望教員がいる場合は、その教員へ研究内容について事前に相談をすること。
連絡を取ることができない場合は、入試センターに相談してください。なお、記入したことで指導教員が決定するわけではないことに留意してください。
- 2) **受験票***（本学所定用紙に必要事項を記入し、所定欄に写真を貼付。）
- 3) **修士課程修了（又は修了見込み）証明書**（本学大学院修士課程修了見込みの者は提出不要。）
日本語以外による証明の場合は、日本語訳を添えること。
- 4) **成績証明書**（修士課程のもの。ただし、本学大学院修士課程修了見込みの者は提出不要。）
日本語以外による証明の場合は、日本語訳を添えること。
- 5) **論文等の提出物**

[声楽研究領域]

● 修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。 ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、上記に加えて、そのテーマに関わる論文・研究報告*等。 (写し可) *未発表、査読なし論文・研究報告も認める。	※要旨を添付すること（写し可） ※論文（課題研究報告）および要旨については、その PDF データも併せて提出すること。提出形態は CD/DVD/USB メモリとする（返却しない）。
● 研究テーマに関わる 30 分以上のプログラム (演奏審査用)	※プログラムには、志願者氏名、研究テーマ、作曲者、曲名、各曲の演奏時間を正確に明記すること（書式自由） ※作曲者および曲目は、原語と邦訳の両方を明記すること。
● これまでの演奏会記録（書式自由） ● レポートリー・シート（書式自由）	

[器楽研究領域]

● 修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。 ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、上記に加えて、そのテーマに関わる論文・研究報告*等。 (写し可) *未発表、査読なし論文・研究報告も認める。	※要旨を添付すること（写し可） ※論文（課題研究報告）および要旨については、その PDF データも併せて提出すること。提出形態は CD/DVD/USB メモリとする（返却しない）。
● 研究テーマに関わる 1 時間程度のプログラム (演奏審査用)	※プログラムには、志願者氏名、研究テーマ、作曲者、曲名、各曲の演奏時間を正確に明記すること（書式自由）
● これまでの演奏会記録（書式自由） ● レポートリー・シート（書式自由）	

[創作研究領域]

● 修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、上記に加えて、そのテーマに関わる論文・研究報告*等。(写し可) *未発表、査読なし論文・研究報告も認める。	※要旨を添付すること（写し可） ※論文（課題研究報告）および要旨については、その PDF データも併せて提出すること。提出形態は CD/DVD/USB メモリとする（返却しない）。
● 研究テーマに関わる作品	※楽譜、録音／録画、ソフトウェア、解説文など、作品審査用資料。研究テーマの内容により、上記の中から適宜、審査にふさわしい内容を提出すること。なお、研究テーマが「作曲」の場合は 3 作品程度の製本楽譜の提出を必須とする。
● これまでの演奏会記録（書式自由） ● 作品リスト（書式自由）	

[音楽学研究領域・音楽教育学研究領域]

● 修士論文またはそれに代わる論文。ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、上記に加えて、そのでテーマに関わる論文・研究報告*等。(写し可) *未発表、査読なし論文・研究報告も認める。	※要旨を添付すること（写し可） ※論文および要旨については、その PDF データも併せて提出すること。提出形態は CD/DVD/USB メモリとする（返却しない）。
● 【提出は任意】研究テーマに関わる論文等の研究業績（写しまたは抜刷可）	※研究業績を提出する場合は、その PDF データも併せて提出すること。提出形態は CD/DVD/USB メモリとする（返却しない）。

6) 写真

出願 3 ヶ月以内に撮影したもの（正面、上半身、脱帽、背景なし）を 2 枚（縦 4 cm×横 3 cm）、入学願書と受験票にそれぞれ貼付してください。

7) 入学検定料振込金受付証明書貼付票（入学願書裏面）

銀行収納印を受けた振込金証明書を貼付してください。

8) 受験票返信用封筒

定形（長形 3 号）封筒の宛名に志願者の氏名、郵便番号、住所を明記し、速達郵便料金分の切手（410 円分）を貼付してください。志願者本人が 2026 年 2 月に居住、あるいは郵便物が確実に届く住所を記入してください。

*印の書類は本学所定の用紙です。入試センターへ出願書類をご請求ください。

（2025 年 12 月中旬より配布）

記入上の注意

- ① 各提出書類に記入する氏名、生年月日は、戸籍と同一のものとします（通称名、呼称は使用できません）。婚姻等により出願書類と各種証明書の氏名が異なる場合は、同一人であることを証明する公文書を添付してください。
- ② 提出書類に不備があった場合には、受け付けできないことがあります。また、本人の申出による、出願後の書類の変更・追加・返却には一切応じられません。
- ③ 修士課程の課題研究報告または修士論文以外に、特に修士課程修了後に、論文、レポート、プログラム・ノート等の自身で執筆したものがあれば、提出してください（写し可、ただしすべてについて公表された雑誌等の出典を明記してください）。
- ④ 論文等が日本語、英語以外で執筆されている場合は、日本語訳または英語訳を添付してください。
- ⑤ 外国人留学生の志願者は上記以外にも必要な提出書類がありますので、18 ページ「18.外国人留学生志願者注意事項」をご確認ください。

※入試成績概要の送付

不合格者には、願書に記入いただいた志願者住所に入試成績概要を送付します。

10. 受験票の送付

上記の出願手続を行った方には、受験票および入試日程表を送付します。2026 年 2 月 13 日（金）までに届かない場合は、入試センターまでお申し出ください。

11. 試験科目

■ 声楽研究領域

- 1) 研究報告審査（修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、そのテーマに関わる論文等。）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：研究報告、小論文に関して
- 4) 演奏審査：研究テーマに関わるプログラムより 20 分以上の演奏（演奏曲は当日指定する＜曲の途中でカットする場合もある＞。演奏は全て暗譜。）
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（辞書 1 冊のみ持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。） [60 分]

※外国人留学生は日本語試験関係書類の提出に加え、英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（母語選択可）

■ 器楽研究領域

- 1) 研究報告審査（修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、そのテーマに関わる論文等。）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：研究報告、小論文に関して
- 4) 演奏審査：研究テーマに関わるプログラムより 30 分程度の演奏（演奏曲は当日指定する＜曲の途中でカットする場合もある＞。演奏は全て暗譜。ただし、室内楽や不確定性を含む現代曲等の場合はこの限りではない。）
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（辞書 1 冊のみ持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。） [60 分]

※外国人留学生は日本語試験関係書類の提出に加え、英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（母語選択可）

■ 創作研究領域

- 1) 研究報告審査（修士論文、修士課程の課題研究報告、または、これらに相当するものと判断できる論文等。ただし、修士課程の研究と異なるテーマで博士後期課程の研究を行う場合は、そのテーマに関わる論文等。）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：提出作品、研究報告、小論文に関して
- 4) 作品審査：研究テーマに関わる作品の審査
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（辞書 1 冊のみ持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。） [60 分]

※外国人留学生は日本語試験関係書類の提出に加え、英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（母語選択可）

■ 音楽学研究領域

- 1) 論文審査（修士論文またはそれに代わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：修士論文、小論文に関して
- 4) 外国語（言語科目）：英語、独語、仏語、伊語、日本語（古文）より 2 言語（明治以前の日本を研究対象とする場合に限り、日本語（古文）を選択可。）ただし、研究分野が楽器・音響または音楽療法の場合は 1 言語（日本語（古文）は選択不可。）（各言語につき 1 冊のみ辞書持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。） [各 60 分]

※外国人留学生は日本語試験関係書類の提出に加え、英語、独語、仏語、伊語、日本語（古文）より 1 言語（母語選択可）（明治以前の日本を研究対象とする場合に限り、日本語（古文）を選択可。）

■ 音楽教育学研究領域

- 1) 論文審査（修士論文またはそれに代わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：修士論文、小論文に関して
- 4) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（辞書 1 冊のみ持ち込み可。ただし、電子辞書は不可。） [60 分]

※外国人留学生は日本語試験関係書類の提出に加え、英語、独語、仏語、伊語より 1 言語（母語選択可）

➤ 外国人留学生の場合でも、すべての研究領域で外国語試験の受験が必要です。

詳細は各研究領域の試験科目を確認してください。

- 外国人留学生の日本語試験は、日本留学試験（EJU）（日本語）または日本語能力試験（JLPT）の成績により判定を行います。（詳細は「18. 外国人留学生志願者注意事項」を参照。）
- 外国語の過去問題を希望する方は広報センター（042-535-9500）に請求してください。

12. 選抜方法

提出論文（作品）、演奏審査、研究計画、口述試験の審査結果および出願書類の内容に基づいて総合的に判定します。ただし、外国語が基準に満たない場合は不合格となります。

13. 受験上の注意事項

- 1) 受験の際は、常に受験票を携帯してください。
- 2) 試験当日の集合時間を厳守してください。試験開始時刻に遅れた場合は受験資格を失います。
- 3) 時計のない試験場もあるので、時計（計時機能に限る）を持参してください。試験場および控室では携帯電話等の電源は切ってください。（時計として認めません。）
- 4) 試験場等に変更が生じた場合は学内（本部棟北側掲示板）に掲示します。試験当日は必ず確認してください。
- 5) 外国語の試験で、辞書の持ち込み可能な場合は、各言語につき 1 冊のみとします。ただし、電子辞書は認めません。
- 6) 特に指定のない限り、電子機器の使用は認めません。
- 7) 試験内容に関する電話での問い合わせには応じられません。
- 8) 伴奏はピアノ伴奏のみとし、伴奏者は同伴してください。ただし伴奏者は、同入学試験の出願者でない者が望ましい。（試験日・時間帯が重なっても考慮はできません。）
- 9) 器楽研究領域（ピアノ）の出願者が、演奏審査において、ソロではなく共演者を伴う楽曲を演奏する場合は、必ず出願者自身が共演者を同伴してください。なお、共演者がいる場合は、共演者の詳細（例：フルート 1 名）を出願期日の 2026 年 1 月 20 日（火）までに入試センターへメールで連絡してください。（nyugaku@kunitachi.ac.jp）

14. 試験日程および試験場

試験日程：2026 年 3 月 2 日（月）～3 月 3 日（火）（予備日 3 月 4 日（水））

試験場：国立音楽大学（東京都立川市柏町 5-5-1）

※試験日程は、志願者数等によって変更する可能性があります。詳細については出願後に送付する入試日程表でお知らせします。

15. 合格発表

合格発表日：2026 年 3 月 9 日（月）午前 10 時

場 所：本学 Web サイト

（注意）電話等による問い合わせには応じられません。合格者は、受験票を提示の上、合格証および入学手続上必要な書類を入試センターで受け取ってください。郵送を希望の場合は入試センターまであらかじめご相談ください。

16. 入学手続

手続期間：2026 年 3 月 9 日（月）～3 月 13 日（金）午前 9 時～午後 5 時

上記期間内に下記のものを提出（納入）してください。

- 1) 納入金（下記納入金および「17. 学生支援」の項を参照）
- 2) 誓約書（保証人連署）
- 3) 修了証明書および成績証明書（大学院修了見込みで出願した者のみ）

※期間内に手続きをしない場合は、棄権したものとみなし、入学を許可しません。

※上記提出物に加えて、別途提出が必要な書類があります。詳細は合格時にお知らせします。

※入学手続を完了した者が入学を辞退する場合は、返還申し込み期日（2026 年 3 月 25 日）までに、事由を明らかにして所定の手続きをしてください。既納の納入金から入学金を除いた金額を返還します。なお、返還手続の最終期限は 2026 年 3 月 31 日ですが、新年度の授業運営準備

のため、原則として 2026 年 3 月 25 日までに手続きを行ってください。

納入金（下記金額は 2026 年度のものです。）

（単位：円）

	初年度（年額）		次年度以降（年額）	
	本学修士課程修了者	他大学修士課程修了者	本学修士課程修了者	他大学修士課程修了者
入 学 金	150,000	300,000		
* 授業履修費	* 1,100,000	* 1,100,000	* 1,100,000	* 1,100,000
施設設備費	280,000	280,000	280,000	280,000
維持運営費	150,000	150,000	150,000	150,000
合 計	1,680,000	1,830,000	1,530,000	1,530,000

※3 年次には、上記以外に本学の同窓会である同調会の入会金 20,000 円の納入を要します（在学中 1 回のみ）。ただし、本学学部、または修士課程在学中に納入している方は除きます。

* 「17. 学生支援」を参照してください。納入金は前期、後期の 2 回分納になります。

17. 学生支援（サポート体制）

①国立音楽大学大学院奨学金

入学時の給付希望者に対して 3 年間、授業履修費のうち 500,000 円分の奨学金（返還不要）を支給します。奨学金給付希望の有無を入学願書の所定欄に記入してください。なお、希望しない場合のみ、その理由を記入してください。

奨学金の給付を受けた場合の初年度納入金は、次のとおりです。（2026 年度）

	本学修士課程修了者	他大学修士課程修了者
前期（入学手続き時）	665,000 円	815,000 円
後期（10 月末日）	515,000 円	515,000 円
合計	1,180,000 円	1,330,000 円

②留学制度

アジア、ヨーロッパ、アメリカの 12 大学と交換留学協定を締結しています。本学大学院に在籍したまま通常 1 年間留学し、そこで取得した単位を本学で履修した授業科目の単位とみなすこともできます。

なお、大学によっては留学対象者を一部の研究領域に限定している場合もありますので、詳細は教務課までお問い合わせください。

18. 外国人留学生志願者注意事項

◎出願要件（出願資格）

1. 入学時までに入出国管理および難民認定法による「留学」の在留資格を有する者。ただし、「永住者」を除く。
2. 12 ページ「7.出願資格」1) ～5) のいずれかに該当すること。
3. 確実な身元保証人がいること。身元保証人は、日本国内に居住し、一家計を立てる成年者で、志願者の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者であること。
4. 日本留学試験（EJU）（日本語）または日本語能力試験（JLPT）を受験しており、日本語能力試験（JLPT）については、N1 合格を条件とする。

◎提出に関する注意

外国人留学生志願者は、2026 年度国立音楽大学大学院音楽研究科(博士後期課程)の受験に際し、下記の書類 1) ～14) を提出してください。

その際、出願書類の氏名・生年月日は必ず旅券（パスポート）に記載されているものと同一にすること。異なる場合は、出願書類として認めません。

1) ～8) は 13～14 ページ「9.出願書類」を参照してください。

9) 日本語試験関係書類

下記①または②のうちいずれかひとつ ※1 回分のみ提出してください。

① 日本語留学試験（EJU）（日本語）の「受験票」の写し

※提出可能なものは、2024 年 4 月以降実施分のみとします。

② 日本語能力試験（JLPT）の「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」

※N1 合格のものとしします。

※取得年度は問いません。また写しではなく、原本を提出してください。

日本語能力試験（JLPT）については、原則、当該年度の第 1 回試験までに N1 に合格している方を前提としています。が、当該年度の第 2 回試験を受験する等の理由により出願時に「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」を提出できない場合は、必ず事前に入試センターへメールで相談してください。(nyugaku@kunitachi.ac.jp)

10) 身元保証書（本学所定用紙）

保証人は日本に居住している者で、試験期間中、在学中の身元および経費の一切について保証できる者。なお、身元保証人の保証能力を示す資料の提出を求めることがあります。また、保証人が在日外国人の場合は、その者の在留カードの写し（両面）を添付してください。

11) 在留カードの写し（両面）

12) 入国査証の写し

出願時に有している場合のみ提出してください。

13) 旅券（パスポート）身分事項ページの写し

14) 外国人志願者調書（本学所定用紙）

※本学所定用紙と記載されている書類は、本学入試センターへご請求ください。

◎出願及び受験に関する注意

1. 外国から郵送で出願する者は、出願書類を書留にし、2026 年 1 月 13 日（火）から同年 1 月 20 日（火）（消印有効）の期間内に送付してください。ただし、郵便物の到着に時間がかかることがあるので、外国から郵送する場合は送付前に記載済みの願書を写真に撮り（またはスキャン）、消印有効期日の 1 月 20 日（火）までにメール添付で入試センターへ送付してください。(nyugaku@kunitachi.ac.jp)
2. 入学検定料の振込にかかるすべての手数料は本人負担とし、手数料を除いて日本円で 50,000 円となるように振込むようにしてください。
3. 受験の際、在留カードを持参すること。
4. 外国人留学生の場合でも、すべての研究領域で外国語試験の受験が必要となります。詳細は 15～16 ページ「11.試験科目」を確認してください。

◎合格後に関する注意

授業開始後 1 週間を過ぎても来学しない場合は入学を取り消します。

19. 個別入学審査資格について

「本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに 24 歳に達する者。」により出願を希望する場合は、下記の書類を提出の上、入学資格の審査を受けてください。入学資格が認められた場合のみ、出願を認めるものとします。なお、この審査を受けることができるのは、2026 年 4 月 1 日現在、24 歳に達している者に限ります。

1. 提出書類

- 1) 入学資格審査申請書（本学所定用紙）
- 2) 最終学校（教育施設）の卒業（修了）または卒業（修了）見込み証明書
- 3) 最終学校（教育施設）の成績証明書および単位取得証明書
- 4) 最終学校（教育施設）の概要（概要が明記されている学校案内等）
- 5) 返信用封筒（定型長 3 封筒、送付先明記、速達郵便料金分の切手 [410 円] 貼付）

※本学所定用紙と記載されている書類は、本学入試センターへご請求ください。

※必要に応じて上記以外の書類提出を求めることがあります。

また、一度提出された書類は返却はしません。

※日本語以外による証明は、日本語訳を添えてください。

2. 審査方法

提出された書類に基づき総合的に審査します。

3. 申請期間

2025 年 10 月 1 日～11 月 28 日（郵送〈速達簡易書留〉のみ・期間内必着）

4. 結果通知

2025 年 12 月末日までに郵送で本人宛に通知します。

なお、認定を受けた者が出願するときには、本学認定通知書の写しを添えてください。

5. 書類提出先（問い合わせ先）

国立音楽大学入試センター

〒190-8520 東京都立川市柏町 5-5-1 電話 042-535-9536